

## ACCESS 関数 TRY

ACCESS で良く使う関数を学習、自身のプログラムに利用できるように、メッセージ、日付/時刻、文字列、数学/統計データ型、式評価/分岐処理の6つのカテゴリに整理しました。また、自身のデータに対し事前に処理結果を評価、確認することもできます。皆さんの学習や仕事に少しでも役立てば幸いです。

著者 倉田秀雄

## 目次

• はじめに.....	2
• 対象ユーザ.....	2
• 環境.....	2
• ファイル/登録先.....	2
• 商標.....	2
• 免責.....	3
• 著作権.....	3
• 配布.....	3
• 操作要領.....	3
• 禁止事項.....	3
• 連絡先.....	3
• <b>プログラムの起動</b> .....	<b>4</b>
• ACCESS 関数 2021TRY.ACCDE の起動.....	4
• <b>サンプル式を試す</b> .....	<b>5</b>
• 要領.....	6
• <b>抽出条件と定義</b> .....	<b>8</b>
• <b>メッセージ</b> .....	<b>9</b>
• メッセージの特徴.....	9
• 使用方法.....	10
• <b>日付/時刻</b> .....	<b>12</b>
• 要領.....	13
• 収録関数の内容.....	14
• <b>文字列</b> .....	<b>15</b>
• 要領.....	16
• 収録関数の内容.....	17
• <b>数学/統計</b> .....	<b>18</b>
• 要領.....	19
• 収録関数の内容.....	20
• <b>データ型</b> .....	<b>21</b>
• 要領.....	22
• 収録関数の内容.....	22
• <b>式評価/分岐処理</b> .....	<b>23</b>
• 要領.....	24
• 収録関数の内容.....	24

## はじめに

- これまで、Access 関数 97 トライ並びに、Access2000 トライに関し、これまでに多くの方にご利用いただきありがとうございます、また、雑誌等で取り上げていただき感謝いたします。このプログラムは既に発表した、Access 関数トライ 2000 をベースに Access 2021 用に改修したもので Windows64bit 版に対応しています。

Access2021 で動作テストし不具合のあった箇所について修正しています。

- このプログラムの特徴は

- Access 関数の入力例をサンプルデータで確認することができます。
- Access 関数の入力例をクリップボードにコピーしてユーザのクエリ、フォームで利用できます。
- 抽出条件と定義から、書式、引数、戻り値を確認することができます。
- 検索はカテゴリ別に「関数名」、「関数の機能内容」のそれぞれから実行可能です。

## 対象ユーザ

- Access でテーブル、クエリ、フォーム、レポート、マクロ、イベントプロシージャ、モジュールの意味を理解している又は勉強中の初心者の方
- Excel 関数を使用した経験がある方
- 論より結果:先ずはサンプルデータから書式をコピーして自身のプログラムに関数を組み込み、確認してみたい方
- ユーザ自身の入力データに対して、希望した出力ができるか試してみたい方
- とにかく関数でどんなことができるのか、見てみたい方
- MS 社 Access ユーザの方

## 環境

- OS Windows10 および Windows11
- このプログラムは、ACCESS2021 で確認しました。

## ファイル/登録先

- ダウンロードしたファイル は ZIP 形式で保存しています。
- 保存先は、ユーザで設定して下さい。
- このプログラムは以下の解凍データのみで、レジストリ等への書き込みは一切行いません。

Access 関数 2021Try.lzh

(1) Access 関数 2021Try.accde このプログラム本体

(2) ACCESS 関数 TRY 操作要領.pdf この資料です。

このプログラムのヘルプ 本体と同じフォルダに保管して下さい。

(3) お読みください.txt ソフト使用に当たっての簡易説明資料(テキストファイル版)

## 商標

- Microsoft Windows ACCESS、EXCEL 等の名称は Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- その他、記載の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

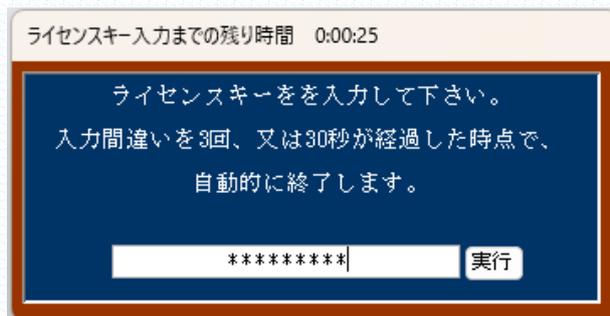
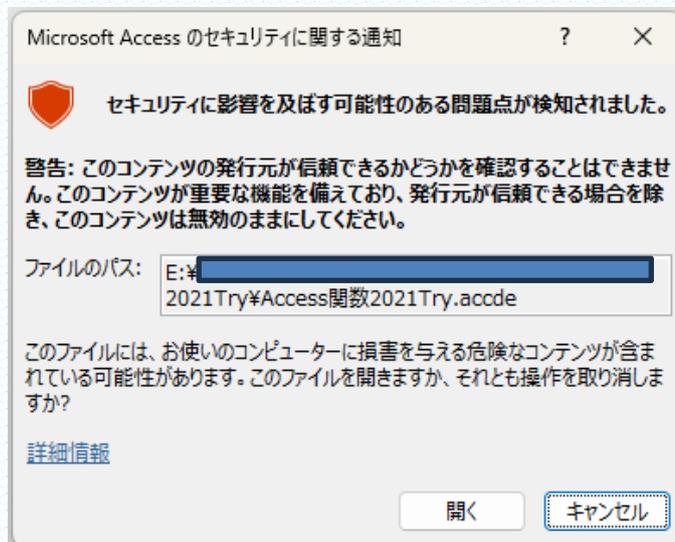
<p><b>● 免責</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ソフトウェアの使用または使用不能から生じるコンピュータの故障、情報の消失、その他、いかなる損害に対しても作者は一切の責任を負いません。これに同意の上ご使用ください。</li> <li>● ソフトを使用する場合、必ず、データのバックアップを取るなどリスク管理を行って下さい。</li> <li>● 特にこのプログラムで生成したソースコードの貼り付けは、良くご確認の上行って下さい。</li> </ul>
<p><b>● 著作権</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ソフト並びに全ての文章、文責および著作権は 倉田秀雄 に帰属します。</li> </ul>
<p><b>● 配布</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 雑誌、書籍等への収録、頒布する場合は事前に作者の承諾を得て下さい。</li> </ul>
<p><b>● 操作要領</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● このファイルです。本プログラムを同じフォルダに保管してください。</li> </ul>
<p><b>● 禁止事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ユーザは以下の事を行う事は出来ません。</li> <li>● 第三者に対して、本ソフトウェアを販売、販売を目的とした宣伝、使用、営業、複製等を行う事</li> <li>● 第三者に対して、本ソフトウェアの使用権を譲渡または再承諾する事</li> <li>● ソフトウェアをリバースエンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブルする事</li> <li>● 本承諾書、付属文書、本ソフトウェアの一部又は全部を改変、除去する事</li> </ul>
<p><b>● 連絡先</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● このソフトについてのバグ情報等は下記まで御願ひ致します。  <a href="mailto:hideo_kurata@hotmail.com">hideo_kurata@hotmail.com</a></li> </ul>

## ● プログラムの起動

## ● Access 関数 2021Try.acdde の起動

※セキュリティに関する通知」のダイアログが表示される

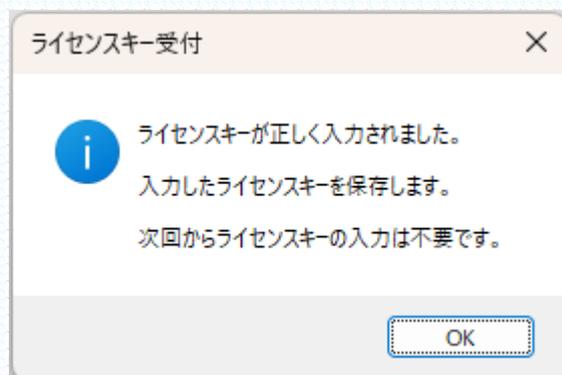
「開く」をクリックします。



※パスワード入力に30秒を超えると  
自動終了します。(カウントダウンします)  
※パスワードの入力を3回間違えると  
自動終了します。

※パスワードの入力に成功すると次のメッセージが表示されます。

- (1) オープニング画面が表示されます。
  - (2) 次のページに示す「サンプル式を試す」で紹介するメイン画面が開きます。
- パスワード登録後、次回以降に起動すると、「オープニング画面」が開き、自動で閉じた後メイン画面が開きます。



**サンプル式を試す**

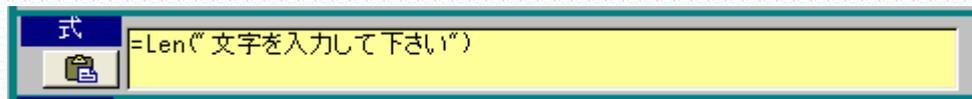
- タブページより「文字列」を選択します。ここでは、「LEN」関数を用いてユーザのプログラムでクエリに式を代入する方法を説明します。

以下画面を参照して下さい。

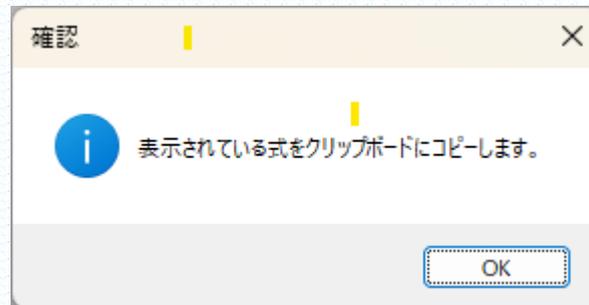
The screenshot shows the Microsoft Access interface with the 'String' tab selected in the 'Field List' pane. The '抽出条件' (Criteria) section shows the field '索引 文字列の長さを返す' (Index: Return string length), the table '索引 Len, LenB', and the function '関数 Len'. The '書式' (Format) section is set to 'Len(文字列)'. The '引数' (Arguments) section shows the text '文字を入力して下さい' (Enter text) entered in the '文字列選択' (String selection) field. Below this, there are options for '文字数' (Character count), 'バイト数' (Byte count), and '変換の種類' (Conversion type), with 'ソフトJISコード' (Soft JIS code) selected. The '検索する文字列' (Text to search for) field is empty. The '式' (Formula) section shows the formula '=Len("文字を入力して下さい")'. The '戻り値' (Return value) section shows the result '10 文字数' (10 characters).

## ● 要領

- サンプル式を試す説明のため、このプログラムで使用している「T\_employee」のテーブルを基にクエリを作成します。
  - このプログラムで選択した関数の式「」をコピーします。
  - コピーは「式」の下にあるボタンをクリックします。



クリック



- コピーした式をフィールド欄に貼り付けると  
=Len(“文字を入力して下さい”)と表示された後、式 1: Len(“文字を入力して下さい”)と表示されます。

フィールド:	ID	社員番号	式 1: Len(“文字を入力して下さい”)
テーブル:	T_employee	T_employee	
並べ替え:			
表示:	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
抽出条件:			
または:			

- 「式1」を「文字数」に  
「文字を入力して下さい」を [社員番号] に変更します。  
式 1: Len(“文字を入力して下さい”) は 文字数: Len([社員番号]) となります。

- 「実行」をクリックします。
- クエリの実行結果として、フィールド「文字数」に使用した「LEN」関数の結果が表示されます。

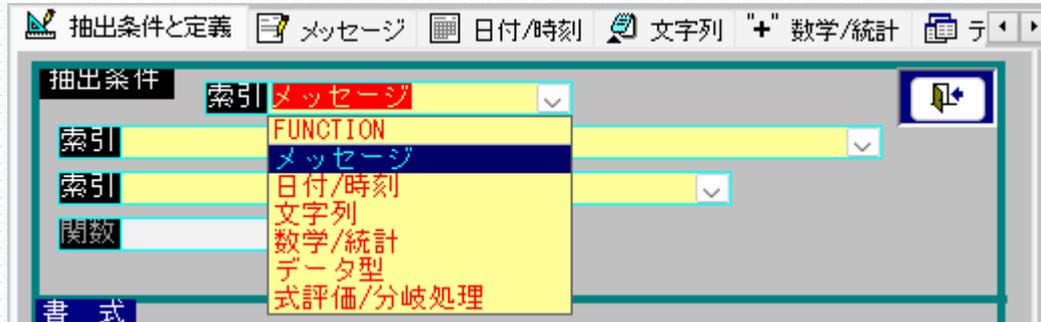
The screenshot shows the Microsoft Access interface. On the left, the ribbon is visible with the '実行' (Execute) button highlighted by a red box. A red arrow points from this button to the '文字数' (Character Count) column in the query results table on the right. The table has three columns: 'ID', '社員番' (Employee ID), and '文字数'. The data rows show employee IDs and their corresponding character counts, with the first row being 62A001 and 6.

ID	社員番	文字数
1	62A001	6
2	71A002	6
3	72C001	6
4	73C001	6
5	74D001	6
6	75S001	6
7	76D001	6
8	77R001	6
9	78F001	6
10	79G001	6
11	79G002	6
*	(新規)	

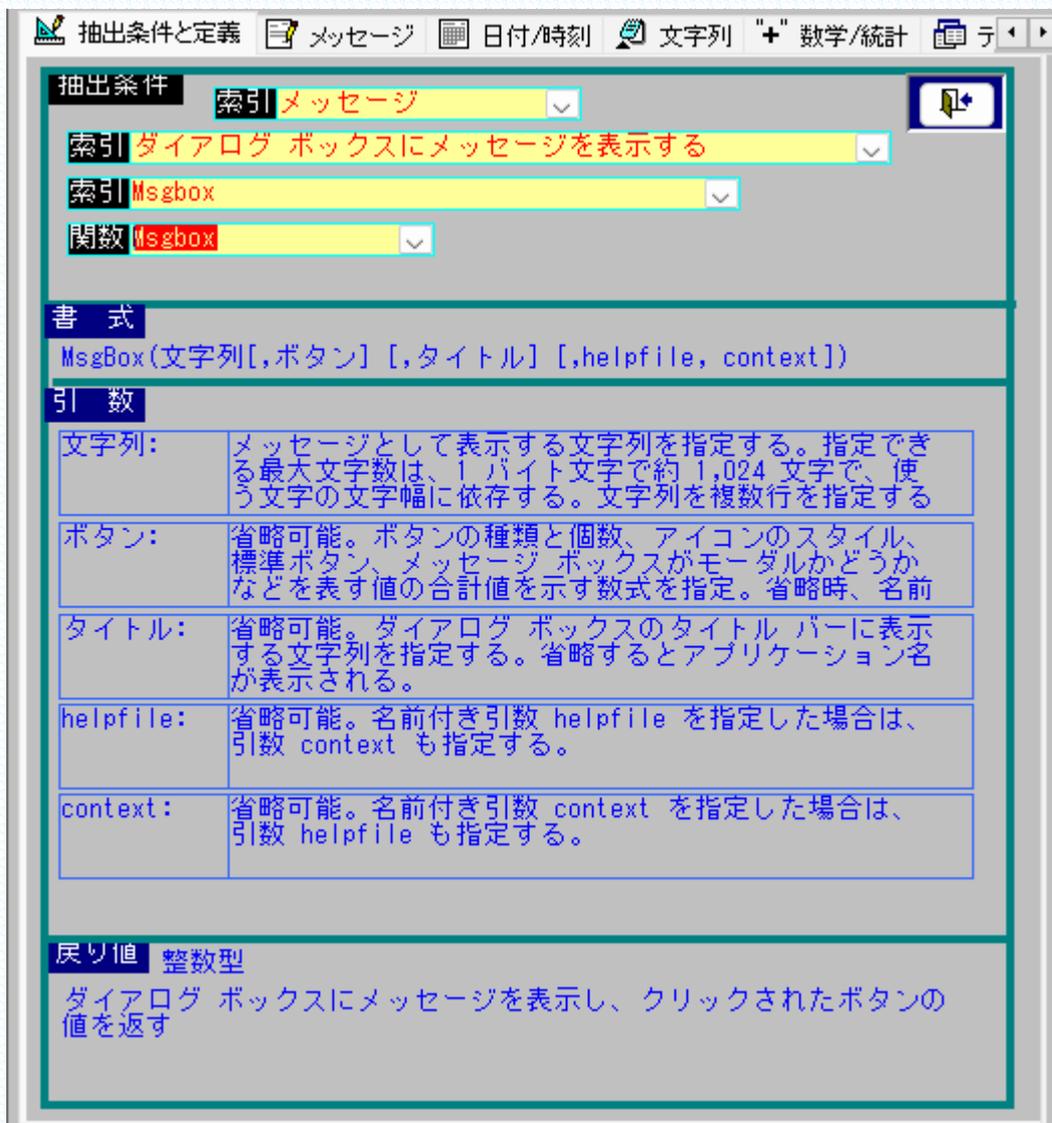
## ● 抽出条件と定義

● タブページより「抽出条件と定義」を選択します。

- 索引より調査したい定義を選択します。



- 引き続き表示される「索引」から確認したい項目を選択していきます。
- 確認したい「関数」を選択すると、書式、引数、戻り値の説明が表示されます。



## メッセージ

● タブページより「メッセージ」を選択します。

- メッセージ関数を使用し、ユーザが入力したメッセージ内容、条件でサンプル表示します。
- ユーザが入力したメッセージ内容、条件で実際のメッセージを表示します。
- ユーザが入力したメッセージ内容のソースコードを「値」または「定数」で2種類のソースコードを表示します。
- ソースコードはそのまま、クリップボードにコマンドボタンを使用してコピーすることができます。

抽出条件と定義

抽出条件

索引 **ダイアログ ボックスにメッセージを表示する**

関数 **MsgBox**

書式

MsgBox(文字列[,ボタン] [,タイトル] [,helpfile, context])

引数 Access関数TRY

ご利用ありがとうございます  改行

accessの関数学習並びに業務でご利用ください。  改行+改行

お役に立てば幸いです。 **設定 リセット**

ボタン選択 **vbOKOnly** [OK] 0

アイコン選択 **vbInformation** 情報メッセージ 64

標準ボタン **vbDefaultButton1** 第1ボタン 0

表示サンプル | **メッセージの実行例** | ソース1 | ソース2 | **Σ 64**

Access関数TRY

ご利用ありがとうございます

**i** accessの関数学習並びに業務でご利用ください。

お役に立てば幸いです。

OK

Access関数TRY

ご利用ありがとうございます

**i** accessの関数学習並びに業務でご利用ください。

お役に立てば幸いです。

OK

## メッセージの特徴

- メッセージ関数を使用し、ユーザが入力したメッセージ内容、条件でサンプル表示します。
- ユーザが入力したメッセージ内容、条件で実際のメッセージを表示します。
- ユーザが入力したメッセージ内容のソースコードを「値」または「定数」で2種類のソースコードを表示します。
- ソースコードはそのまま、クリップボードにコマンドボタンを使用してコピーできます。
- ユーザは Access のイベントプロシージャに貼付け、メッセージの選択ボタン選択時の処理内容を、ユーザの実行したい処理内容を追記することで、利用可能です。

## ● 使用方法

### ● 抽出条件

- 「メッセージ」は、メッセージ関数のみですので、抽出条件を選択する必要はありません。

### ● 引数: タイトル入力

- デフォルト値として「タイトル」欄に “タイトルを入力” が入力されています。
- メッセージの「タイトル名」を入力して下さい。

### ● 引数: メッセージ内容を入力

- デフォルト値として、「メッセージを入力して下さい。」を表示しています。
- 3行分のメッセージ入力用テキストを準備しました。
- メッセージの作成は、できるだけ短い文章で、状況、処理内容説明、結果説明、処置報告、指示、補足事項を入力することがポイントとです。

### ● 複数行メッセージの改行指定

- 複数行入力したメッセージの表示のデフォルト値は「改行」です。
- 一行おきに表示したい場合は「改行+改行」を選択して下さい。

### ● メッセージの設定

- 表示したいメッセージの入力が終了後、[設定] ボタンをクリックします。
- メッセージのサンプル欄に設定した「タイトル」と「メッセージ内容」を表示します。
- 最初から入力をやり直す場合、[リセット] コマンドボタンをクリックするとデフォルト値にリセットします。

### ● 引数: ボタン選択

- ボタン選択のコンボボックスより、メッセージに表示したいボタンを選択します。
- 表示内容の選択は[定数]または[内容]から選択できるので、ユーザが利用し易い方から選択して下さい。

### ● 引数: アイコン選択

- アイコン選択のコンボボックスより、メッセージに表示したいアイコンを選択します。
- デフォルト値は、「無指定」です。
- 「ボタン選択」を[定数]からやり直しすると、「アイコン選択」は自動的にデフォルト値にリセットします。
- 表示内容の選択は[定数]または[内容]から選択できるので、ユーザが利用し易い方を選択して下さい。

### ● 引数: 標準ボタン選択

- 例えば、「はい」、「いいえ」のようにメッセージに複数ボタンを指定した場合の標準ボタンを設定します。
- メッセージを確認した後に、ユーザがボタンの選択を誤ってエンター処理により操作したとき、その後の処理のリスクの低い方の処理が実行されるようにしておくことで処理上のリスクが回避できます。

### ● メッセージの実行例

- 引数の設定後、[メッセージの実行例] ボタンをクリックします。
- 設定した内容で実際のメッセージが表示されます。
- 表示されたメッセージの選択ボタンは、どれを選択してもかまいません。
- 選択した選択ボタンの結果を表すメッセージが表示します。

### ● ソース 1

- 設定したメッセージのソースコードを各選択ボタンの値を使用した例で表示します。
- メッセージのソース内の各選択ボタンの値は、選択したボタンの[値]の合計値を使用します。

### ● ソース 2

- 設定したメッセージのソースコードを各選択ボタンの[定数]を使用した例で表示します。
- メッセージのソース内の各選択ボタンの[定数]をそれぞれ[+]記号でつないで表示します。

### ● ソースコードのコピー

- それぞれのソース1又はソース2ボタンを選択すると、ソースボタンの右側にクリップボードにソースコードをコピーするためのコマンドボタンが表示されます。なお、ソースコード選択時以外は、表示されません。

### ● ソースコードをプログラムに利用する

#### ● クリック時: イベントプロシージャ の入力例

```
Private Sub INDEX_Click()
```

' 以下の二重線内に記載された内容がこのプログラムで生成されたメッセージ関数のソースコード例です。  
' メッセージの選択ボタンは、選択したボタンの集計値で示されています。

```
Dim STRMSG As String
```

```
Dim RESPONSE As Integer
```

```
STRMSG = "データの更新を行います。" & vbCrLf & vbCrLf & "更新するとデータは元にもどせません。"
```

```
RESPONSE = MsgBox(STRMSG,vbYesNo + vbInformation + vbDefaultButton1,"更新")
```

```
IF RESPONSE = VbYes Then
```

```
'[はい]の場合の処理
```

```
Else
```

```
'[いいえ]の場合の処理
```

```
END IF
```

```
END Sub
```

## ● 日付/時刻

- タブページより「日付/時刻」を選択します。

以下画面を参照して下さい。

The screenshot shows the 'Date/Time' function configuration dialog box in Access. The window title is '抽出条件と定義' (Criteria and Definition). The main area is divided into several sections:

- 抽出条件 (Criteria):** Shows the current date and time as '2023年10月29日 (日) 12時00分44秒'. Below it, the '索引' (Index) is set to '2つの日付/時刻の間隔を返す' (Returns the interval between two dates/times), and the '関数' (Function) is 'DateDiff'.
- 書式 (Format):** The format is 'DateDiff (単位,日付/時刻1,日付/時刻2[,起算曜日[,起算週]])'.
- 引数 (Arguments):** This section contains input fields for the function's arguments:
  - 単位を指定 (Specify Unit):** A dropdown menu set to 'yyyy'.
  - 日付を入力 (Enter Date):** A date picker set to '2023年10月29日 日曜日'.
  - 開始日時を入力 (Enter Start Date/Time):** An empty field.
  - 加算値を入力 (Enter Additive Value):** A field with a '減算' (Subtract) button.
  - 起算曜日 (Start Day of Week):** A dropdown menu set to '1'.
  - 起算週 (Start Week):** A dropdown menu set to '1'.
  - 完了日時/時刻を入力 (Enter End Date/Time):** A date picker set to '2025年10月29日'.
  - 日付を数値で入力 (Enter Date as Number):** Two empty numeric input fields.
- 式 (Formula):** The formula bar contains the formula: `=DateDiff("yyyy",#2023/10/29#, #2025/10/29#,1,1)`.
- 戻り値 (Return Value):** Shows the result '2年' (2 years) and the data type 'バリエーション型' (Variant type).

## ● 要領

### ● 索引

- 索引は、グルーピングされた関数名または、インデックスどちらからでも選択できます。
- 関数名または、インデックスより確認したい関数情報を選択します。

### ● 関数

- 関数のボックスを選択すると関数情報がドロップダウンされます。関数を選択すると、サンプルデータによる「式」と「戻り値」を表示します。
- 更に、選択すべき設定値がある場合、そのデータの引数のボックスが自動的にドロップダウンするので、ドロップダウンしたボックスから調査したい引数を選択します。

### ● 引数

- 引数は、指定された関数に対して、対象の関数に必要な項目のボックスのみ可視となり利用できます。対象外の引数は不可視となり使用することはできません。
- 必要な引数を全て選択すると、サンプルデータによる「式」と「戻り値」が表示されます。
- 変数についてボックスからデータを選択するか、直接データを入力する方法が選択できます。
- 直接データ入力した場合は、エンターキーで入力したデータを確定して下さい。
- 「式」と「戻り値」の結果が表示されます。

### ● 使用例

- Datediff 関数のように起算曜日を定数で指定する場合は、既定値を最初に表示します。
- 定数以外の値を指定したい場合は、コンボボックスに、その定数と設定値の関係が表されるので、ユーザが指定したい定数に変更して下さい。
- なお、Datediff 関数は、2つの日付/時刻の間隔を計算しますが、日付で2年後、時刻は5時間後を自動的に設定しています。
- 開始日付、または時刻を変更しても、上記設定により戻り値は同じ結果を返します。
- 関数の構文と式を比較し、実際に選択された引数を確認し、学習に役立てて下さい。

### ● サンプル式をコピーしてクエリで確認

- サンプル式をコピーし、ユーザが作成したクエリで確認するには、まず、サンプルを試すにはユーザ自身のACCESSプログラムを使用して下さい。

関数	内容
<b>CVDate</b>	数値又は文字から日付／時刻に変換
<b>Date,Date\$</b>	現在の日付を返す
<b>DateAdd</b>	指定した期間加算後の日付／時刻を返す
<b>DateAdd 応用</b>	月末の日付を求める
<b>DateDiff</b>	2つの日付／時刻の間隔を返す
<b>DateDiff 応用</b>	年齢を計算する
<b>DatePart</b>	日付／時刻から指定した部分を返す
<b>DateSerial</b>	年、月、日から日付を返す
<b>DateValue</b>	文字列の日付を日付型に変換
<b>Day</b>	日付から日を返す
<b>Format 応用</b>	月初めの日付を求める
<b>Hour</b>	時刻から時を返す
<b>ISDate</b>	日付／時刻に変換可否を検証
<b>Minute</b>	時刻から分を返す
<b>Month</b>	日付から月を返す
<b>Second</b>	時刻から秒を返す
<b>TimeSerial</b>	時、分、秒から時刻を返す
<b>Time,Time\$</b>	現在の時刻を返す
<b>TimeValue</b>	文字列の時間を時刻型に変換
<b>Now</b>	現在の日付／時刻を返す
<b>WeekDay</b>	日付から曜日を返す
<b>Weekday 応用</b>	土曜、日曜は月曜の日付にする
<b>Year</b>	日付から年を返す

## ● 文字列

- タブページより「文字列」を選択します。

以下画面を参照して下さい。

抽出条件と定義 | メッセージ | 日付/時刻 | 文字列 | "+ 数学/統計 | レ

**抽出条件**

索引 (2)文字列、数値、日付、時刻などの書式を設定する

索引 Format,Format\$(定義済書式)

関数 Format 書式指定 日付/時刻型

定義済書式

**書式**

Format(データ[,書式指定文字])

**引数**

書式設定対象データ例 2023/10/29

文字数 バイト数 変換の種類

ASCII CODE を入力

シフトJISコード -32768~65535

検索する文字列 日付(標準)

設定値 日付(標準)

比較法

**参考**

**式**

=Format(#2023/10/29#,"日付(標準)") 又は  
=Format(#2023/10/29#,"General Date")

**戻り値** 2023/10/29 バリエーション型

## ● 要領

### ● 索引

- 索引は、グルーピングされた関数名または、インデックスどちらからでも選択できます。
- 関数名または、インデックスより確認したい関数情報を選択します。

### ● 関数

- 関数のボックスを選択すると関数情報がドロップダウンされます。関数を選択すると、サンプルデータによる「式」と「戻り値」を表示します。
- 更に、選択すべき設定値がある場合、そのデータの引数のボックスが自動的にドロップダウンするので、ドロップダウンしたボックスから調査したい引数を選択します。

### ● 引数

- 引数は、指定された関数に対して、対象の関数に必要な項目のボックスのみ可視となり利用できます。対象外の引数は不可視となり使用することはできません。
- 必要な引数を全て選択すると、サンプルデータによる「式」と「戻り値」が表示されます。
- 変数についてボックスからデータを選択するか、直接データを入力する方法が選択できます。
- 直接データ入力した場合は、エンターキーで入力したデータを確定して下さい。
- 「式」と「戻り値」の結果が表示されます。

### ● 使用例

- 索引より、Format(定義済書式)を選択します。
- 関数より Format を選択します。
- [書式指定]が表示されるので、ここでは数値/通貨型を選択します。
- 続いて設定値のボックスが立ち上げるので、[固定]を選択します。
- [書式設定対象データ例]が表示され、[式]と[戻り値]が表示されます。
- [書式設定対象データ例]はボックスからサンプルデータを選択するか、直接入力でデータを変更でき、[式]や[戻り値]の確認ができます。

### ● サンプル式をコピーしてクエリで確認

- サンプル式をコピーし、ユーザが作成したクエリで確認するには、まず、サンプルを試すにはユーザ自身のACCESSプログラムを使用して下さい。

## 収録関数の内容

関数	内容
Asc	文字から文字コードを返す
Chr, Chr\$	ASC II コードまたはシフト JIS コードを文字にする
Format ,Format\$	(1)文字列、数値、日付、時刻などの書式を設定する
Format, Format\$	(2)文字列、数値、日付、時刻などの書式を設定する
InStr, InStrB	文字列中の文字の位置を返す
Lcase, Lcase\$	半角英文字を小文字に変換する
Left ,left\$ ,LeftB LeftB\$	文字列の末尾部分の文字列を返す
Len, LenB	文字列の長さを返す
Ltrim, Ltrim\$	文字列中の空白を削除する
Mid, Mid\$, MidB, MidB\$	文字列の先頭部分の文字列を返す
Right, Right\$, RightB ,RightB\$	文字列の末尾部分の文字列を返す
Rtrim,Rtrim\$	文字列中の空白を削除する
StrComp	2つの文字列を比較する
Space	指定した個数の空白文字を返す
String	指定した文字を繰り返して表示する
StrConv	文字の種類を変換する
Trim, Trim\$	文字列中の空白を削除する
Ucase, Ucase\$	半角英文字を大文字に変換する

## ● 数学/統計

- タブページより「数学/統計」を選択します。

以下画面を参照して下さい。

The screenshot shows the Microsoft Access function wizard for the Round function. The window title is "数学/統計" (Math/Statistics). The tabs at the top are "日付/時刻" (Date/Time), "文字列" (Text), "数学/統計" (Math/Statistics), "データ型" (Data Type), and "式評価/分岐処理" (Formula Evaluation/Branching). The "抽出条件" (Criteria) section shows the index "索引 数値を指定された桁数で四捨五入した値を返す" (Index: Returns the value rounded to the specified number of digits). The "書式" (Format) section shows the formula "Round(数値, 桁数)" (Round(number, digits)). The "引数" (Arguments) section has three input fields: "数値を入力" (Enter number) with the value "25.5543", "桁数を入力" (Enter digits) with the value "1", and "角度を入力" (Enter angle) which is empty. The "式" (Formula) section shows the formula "=Round(25.5543,1)". The "戻り値" (Return Value) section shows the result "25.6" and the data type "数値" (Number).

## ● 要領

### ● 索引

- 索引は、グルーピングされた関数名または、インデックスどちらからでも選択できます。
- 関数名または、インデックスより確認したい関数情報を選択します。

### ● 関数

- 関数のボックスを選択すると関数情報がドロップダウンされます。関数を選択すると、サンプルデータによる「式」と「戻り値」を表示します。
- 更に、選択すべき設定値がある場合、そのデータの引数のボックスが自動的にドロップダウンするので、ドロップダウンしたボックスから調査したい引数を選択します。

### ● 引数

- 引数は、指定された関数に対して、対象の関数に必要な項目のボックスのみ可視となり利用できます。対象外の引数は不可視となり使用することはできません。
- 必要な引数を全て選択すると、サンプルデータによる「式」と「戻り値」が表示されます。
- 変数についてボックスからデータを選択するか、直接データを入力する方法が選択できます。
- 直接データ入力した場合は、エンターキーで入力したデータを確定して下さい。
- 「式」と「戻り値」の結果が表示されます。

### ● 使用例

- Round 関数は数値を指定された桁数で四捨五入した値を返します。
- 数値と四捨五入した桁数を指定すると、式と戻り値が表示されます。

### ● サンプル式をコピーしてクエリで確認

- サンプル式をコピーし、ユーザが作成したクエリで確認するには、まず、サンプルを試すにはユーザ自身のACCESSプログラムを使用して下さい。

関数	内容
Abs	絶対値
Atn, Sin, Cos, Tan	三角関数
Avg	フィールドの平均値を返す
Count	データのレコード数を返す
Davg	テーブル/クエリに含まれる値の平均値を返す
Dcount	テーブル/クエリに含まれる値のレコード数を返す
Ddegrees	ラジアンを度に変換——モジュールを参照
Dfirst	テーブル/クエリに含まれる先頭の値を返す
Dlast	テーブル/クエリに含まれる末尾の値を返す
Dlookup	テーブル/クエリの値から条件に合うフィールドの値を返す
Dmax, Dmin	テーブル/クエリに含まれる最大値/最小値を返す
Dsum	テーブル/クエリに含まれる値の合計値を返す
First	フィールドの先頭を返す
Hex, Oct	16進数/8進数
Last	フィールドの先頭、末尾を返す
Log, Exp	自然対数、逆自然対数
Int, Fix	整数化、小数点以下桁揃え
Max	フィールドの最大値を返す
Min	フィールドの最小値を返す
Nz	Null 値以外の値を返す
Sgn	符合の取得
Sqr	平方根
Sum	フィールドの合計値を返す
Radians	度をラジアンに変換——モジュールを参照
Rnd	乱数生成
Round	数値を指定された桁数で四捨五入した値を返す

## ● データ型

- タブページより「データ型」を選択します。

以下画面を参照して下さい。

The screenshot shows the Access function wizard for the `CInt` function. The interface is in Japanese and includes the following sections:

- 抽出条件 (Extract Conditions):** Shows the function name `CInt` and the data type `整数型に変更する` (Integer type).
- 書式 (Format):** Shows the formula `CInt (式)`.
- 引数 (Arguments):** A grid of dropdown menus for selecting data types. The first dropdown is set to `0.5`.
- 式 (Formula):** Shows the formula `=CInt (0.5)`.
- 戻り値 (Return Value):** Shows the return value `0` and the data type `整数型`.

例：0.5→0, 1.5→2 小数部が0.5の時、最も近い偶数にまとめられる

## 要領

### 索引

- 索引は、グルーピングされた関数名または、インデックスどちらからでも選択できます。
- 関数名または、インデックスより確認したい関数情報を選択します。

### 関数

- 関数のボックスを選択すると関数情報がドロップダウンされます。関数を選択すると、サンプルデータによる「式」と「戻り値」を表示します。
- 更に、選択すべき設定値がある場合、そのデータの引数のボックスが自動的にドロップダウンするので、ドロップダウンしたボックスから調査したい引数を選択します。

### 引数

- 引数は、指定された関数に対して、対象の関数に必要な項目のボックスのみ可視となり利用できます。対象外の引数は不可視となり使用することはできません。
- 必要な引数を全て選択すると、サンプルデータによる「式」と「戻り値」が表示されます。
- 変数についてボックスからデータを選択するか、直接データを入力する方法が選択できます。
- 直接データ入力した場合は、エンターキーで入力したデータを確定して下さい。
- 「式」と「戻り値」の結果が表示されます。

### 使用例

- Ccur は数値を長整数型に変換します。
- 数値を指定すると、式と戻り値が表示されます。

### サンプル式をコピーしてクエリで確認

- サンプル式をコピーし、ユーザが作成したクエリで確認するには、まず、サンプルを試すにはユーザ自身のACCESSプログラムを使用して下さい。

## 収録関数の内容

関数	内容
Ccur	通貨型に変更する
CDbl	倍数精度浮動小数点型に変更する
Cint	整数型に変更する
CLng	長整数型に変更する
CStr	文字型に変更する
CSng	単精度浮動小数点型に変更する
Cvar	バリエーション型に変更する
IsDate	日付に変換できるか調べる
IsNumeric	数値に変換できるか調べる
IsNull	Null 値かどうか調べる
IsEmpty	空値かどうか調べる
Str, Str\$	数値を文字列にする
Vartype	バリエーション型の内部処理形式を調べる
Val	文字列を数値にする

## ● 式評価/分岐処理

- タブページより「式評価/分岐処理」を選択します。

以下画面を参照して下さい。

抽出条件

索引 個々の式を評価して、評価式が真の場合、評価結果を返す

索引 Switch

関数 Switch

評価式が真の場合に式を返す

書式

Switch(評価式1,式1,評価式2,式2,評価式3,式3,...)

引数

F\_employee

ID	社員番号	生年月日	性別	振込	性別	年齢	分類	区分	振込先
1	62A001	1980/01/01	1	1	男	23	20:24	一般検診	郵便局
2	71A002	1981/12/06	1	2	男	22	20:24	一般検診	町中銀行
3	72C001	1982/04/08	1	4	男	21	20:24	一般検診	村山銀行
4	73C001	1983/06/13	1	3	男	20	20:24	一般検診	海川銀行
5	74D001	1984/02/03	2	1	女	19	:19	一般検診	郵便局
6	75S001	1985/07/18	1	5	男	18	:19	一般検診	UW銀行

情報！生年月日、性別、振込みはデータを書き換えできます。

レコード: 1 / 10

フィルターなし 検索

式

区分: Switch([年齢]<25,\"一般検診\",[年齢]<28,\"簡易ドッグ\",[年齢]<35,\"人間ドッグ\",True,\"人間ドッグ+ガン検診')

## ● 要領

### ● 索引

- 索引は、グルーピングされた関数名または、インデックスどちらからでも選択できます。
- 関数名または、インデックスより確認したい関数情報を選択します。

### ● 関数

- 関数のボックスを選択すると関数情報がドロップダウンされます。関数を選択すると、サンプルデータによる「式」と「戻り値」を表示します。
- 更に、選択すべき設定値がある場合、そのデータの引数のボックスが自動的にドロップダウンするので、ドロップダウンしたボックスから調査したい引数を選択します。

### ● 引数

- 引数は、指定された関数に対して、対象の関数に必要な項目のボックスのみ可視となり利用できます。対象外の引数は不可視となり使用することはできません。
- 必要な引数を全て選択すると、サンプルデータによる「式」と「戻り値」が表示されます。
- 変数についてボックスからデータを選択するか、直接データを入力する方法が選択できます。
- 直接データ入力した場合は、エンターキーで入力したデータを確定して下さい。
- 「式」と「戻り値」の結果が表示されます。

### ● 使用例

- Switch 関数 の例です。
- ここでは、F\_employee というサブフォームでサンプル表示しています。
- 指定した関数の結果を表示している引数の項目は、サブフォームの各フィールドのタイトル欄上に「☆」マークを点滅させて表しています。
- 各処理は、このサブフォームのデータの生年月日、性別、振込 の各項目を使用して行っています。
- これらの項目は、ユーザがこのサブフォーム内でデータの書き換えが可能になっています。
- データを書き換え、エンターキーで確定して下さい。
- これによって、性別1、年齢、分類、区分、振込み先の情報が入力された値に対して再処理され変化します。

## ● 収録関数の内容

関数	内容
Choose	式を評価し引数(式/値)から特定の1つを選択し返す
Iif	式を評価して2つの引数(式/値)の内の1つを返す
Iif 応用	式を評価して2つの引数(式/値)の内の1つを返す
Partition	指定した数値が該当する範囲を示すグループを文字列で返す
Switch	個々の式を評価して、評価式が真の場合、評価結果を返す